



埋蔵文化財愛知

no.54



しがこうえん 志賀公園遺跡の古墳出土遺物

名古屋市北区中丸町に所在する志賀公園遺跡から、古墳時代中期（5世紀前後）の帆立貝形前方後円墳^{ほたてがい}が発見され、大量の古墳祭祀^{さいし}に伴う遺物が出土しました。遺物には、東海地方最古段階の須恵器^{すえき}、土師器^{はじき}、石製品や鳥形木製品があり、古墳のくびれ部・前方部隅^{しゅうごう}・周濠外側の堤部に集中して出土しました（Ⅲ頁に関連記事）。



志賀公園遺跡

遺跡調査速報



やま おく
山ノ奥遺跡

宝飯郡一宮町大字大木
宝飯郡一宮町教育委員会

山ノ奥遺跡は、本宮山の南麓に展開する扇状地の端部に位置する、弥生時代と中世の複合遺跡である。町道改良事業に伴う調査が、平成9年度から開始され、これに関連する調査が今後も継続される予定である。9年度の調査面積は、2,950 m²ほどであった。

遺構・遺物ともに中心となるのは、弥生時代後期の時期で、3条の環濠に囲まれた居住域を検出した。環濠はほぼ並行するが、検出延長はいずれも20mに満たず、全容は不明瞭である。竪穴住居からなる居住域は、環濠との間に若干の空白を置いて存在し、調査区内で84棟以上を確認している。住居跡は最大4回程度の切り合いを有するが、遺物が示す時期から、全てが後期に比定されるものであった。また環濠の外側では、2基の方形周溝墓を検出しており、当該期の台地上での集落の在り方を示す好例となったといえよう。

(一宮町教育委員会 須川勝以)



調査区北半（B区）全景



環濠遺物出土状況



しゃ み せんづか
三味線塚古墳

おしかも
豊田市鷺鴨町神明
豊田市教育委員会

神明遺跡（弥生時代後期～奈良時代の集落遺跡）に隣接する三味線塚古墳は、碧海台地の東端に位置し、南側に川原遺跡を見下ろしている。調査は第二東名自動車道建設に伴うもので、平成9年11月から神明遺跡、同10年6月より三味線塚古墳にとりかかっている。

古墳は大きく削られているが、直径約28mの円墳と考えられ、南側を除いて、幅6～7mの周溝が確認できる。

墳丘上には約5×2mの規模で墓坑が掘削されており、その一方に著しく片寄った状態で、粘土槨が1基確認された。全面に被覆粘土が落ち込んでおり、未盗掘の状態であった。木棺は完全に腐朽していたが、棺床粘土の形状から、長さ4.3m、幅60cm前後の割竹形木棺が復元できる。

木棺内の遺物としては、頭位付近に鉄鏃1点（撫関の柳葉鏃）があるのみで、それに接して、直径20cmほどの範囲で赤色顔料が認められた。

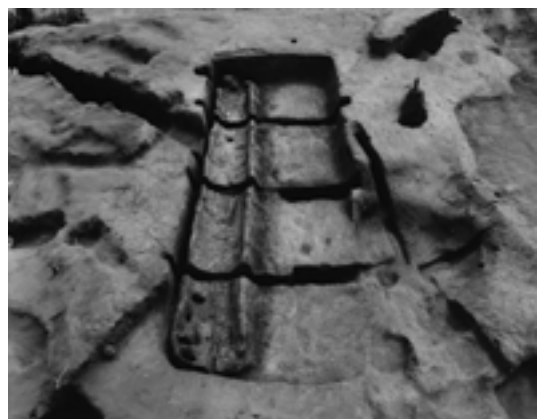
一方、周溝からは比較的多くの土器、石製模造品・U字形刃先などが見つかっている。埴輪は存在しない。須恵器には格子叩き・縄蓆文叩きを含む初期須恵器からH-11号窯式段階までの時期幅が認められる。比較的短期間のうちに周溝は埋没するらしい。

現在は墳丘の断ち割り調査を実施中である。

(豊田市教育委員会 森 泰通)



古墳確認状況



粘土槨完掘状況

し が こう えん 志賀公園遺跡

名古屋市北区中丸町
(財)愛知県埋蔵文化財センター

志賀公園遺跡は、名古屋市北区中丸町周辺に所在し、市の北部を流れる庄内川と矢田川が合流する左岸に形成された標高5m前後の自然堤防及び後背湿地上に位置します。また、本遺跡の周辺には、南に志賀城跡、南西に西志賀遺跡が存在しています。

今回の調査は、住宅・都市整備公団の住宅建設に伴う事前調査として、愛知県教育委員会より委託を受けて平成8年度より実施しており、これまで9,000㎡の範囲の調査が終了しています。調査の結果、中世から戦国時代では志賀城域を区画する北端の溝、飛鳥時代から古代では掘立柱建物と運河と思われる大溝、古墳時代では円墳、弥生時代では住居と方形周溝墓などが確認されています。

今年度は、これまでに古墳時代中期(5世紀前後)の帆立貝形前方後円墳が発見されました。県内では勝手塚古墳はじめ名古屋市守山区志段味地区を中心に数基存在しますが、発掘調査によって発見された帆立貝形前方後円墳は、西春日井郡師勝町の能田旭古墳に次ぎ県内2例目です。

本古墳は、庄内川中流域左岸における前方後円墳として初めて発見されたものです。このことは、今まで前

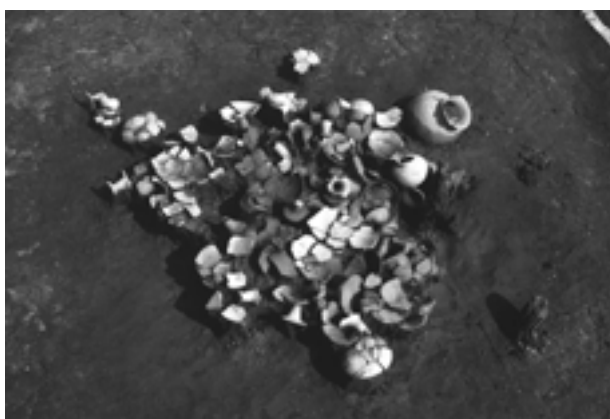
方後円墳の空白域であったこの地域の古墳時代を考えるうえで貴重な資料となります。

古墳の規模は、墳長(推定)50mで、後円部径(推定)33m、前方部長16.5m、前方部幅22mを測ります。周囲には幅約6～8メートルの周濠が二重に巡っていたようです。また、墳丘のくびれ部には扁平の岩石を敷き詰め祭祀の場としたと思われる部分が検出され、前方部隅・周濠外側の堤部とともに大量の古墳祭祀に伴う土器が出土しました。

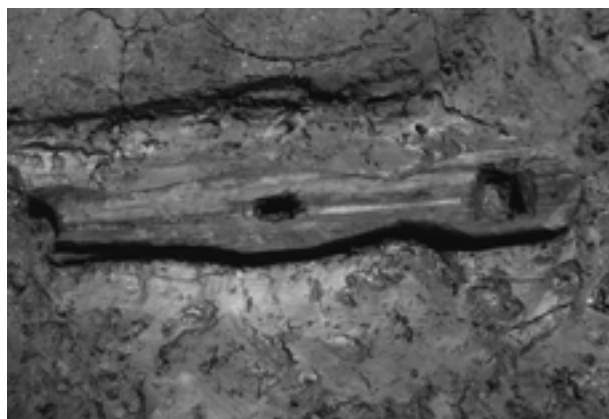
出土遺物は、東海地方最古段階の須恵器の壺や脚付円窓壺、土師器の高杯や小型壺のほか、白玉・有孔円盤などの石製品や鳥形木製品も出土しています。なかでも須恵器は在地生産の開始以前(TK-73併行)の製品と思われる、その生産地は畿内の陶邑古窯群と考えられます。

本遺跡では、既に円墳が確認されており円筒埴輪も出土しています。こうしたことに加えて、今回帆立貝形前方後円墳が発見されたことで、遺跡周辺にこの古墳を中心とした古墳群が展開していたことが予測されます。さらに、帆立貝形前方後円墳の採用・須恵器の導入から、被葬者は先進技術を駆使できた盟主、つまり庄内川と矢田川合流域に広がる沖積地開発に関与した指導的立場の人物であったと考えています。

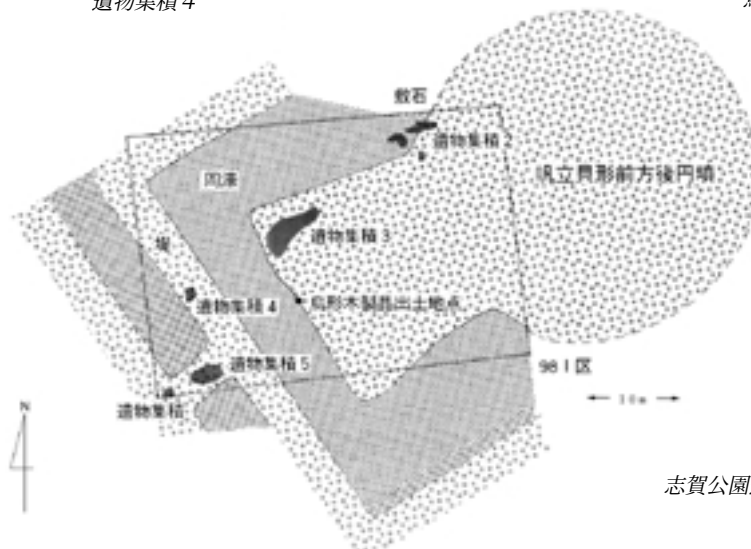
(埋文セ 小川芳範)



遺物集積4



鳥形木製品



志賀公園遺跡 98 I 区遺構図

愛知県出土の古人骨

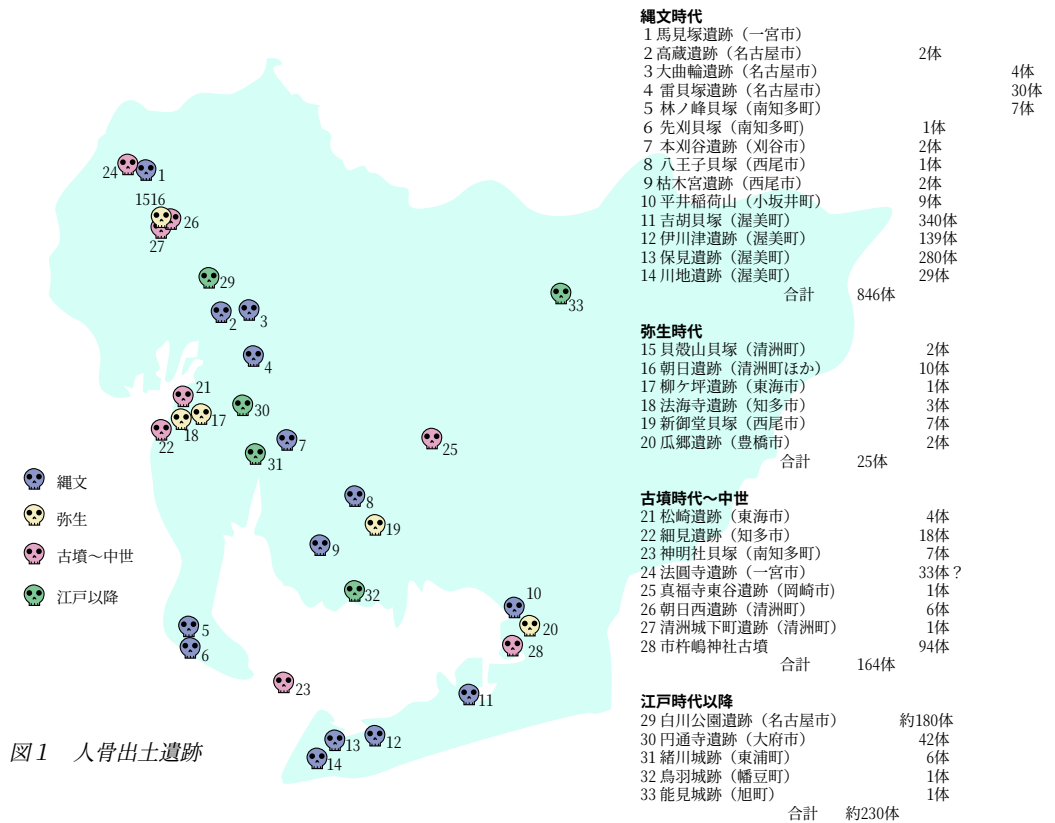


図1 人骨出土遺跡

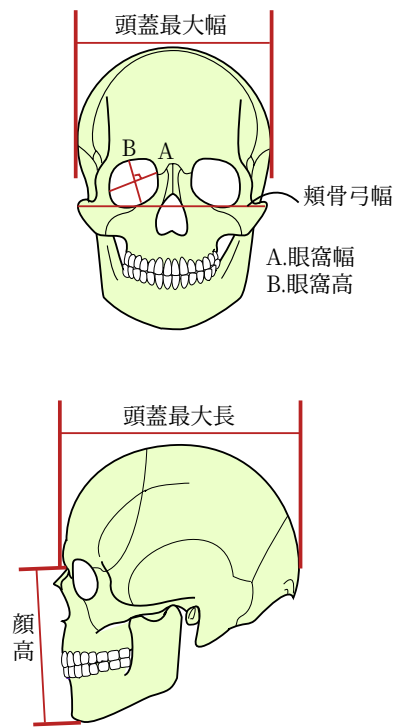


図3 主な計測位置



川地遺跡縄文晩期人骨出土状態

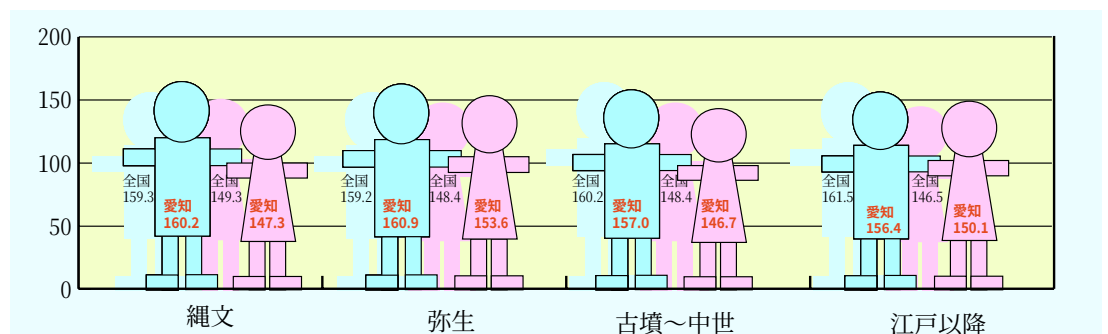


図2 古い人骨の推定平均身長

愛知県内の古人骨といえば、約340体の出土例をもつ吉胡貝塚(渥美町)が全国的にも有名であり、山口県の津雲遺跡の資料とともに、縄文人骨の形質を語る上で欠かせない遺跡である。

ここでは、これまでに県内で出土した人骨の整理を行うとともに、計測値による簡単な比較を行ってみた。

・人骨出土遺跡

人骨が出土した遺跡はおよそ33遺跡である(図1)。時代ごとに見ると、縄文時代が14遺跡846体、弥生時代が6遺跡25体、古墳時代～中世が8遺跡164体、江戸時代以降が5遺跡230体となっている。これらの資料のうち吉胡貝塚のものを除き、身長が推定できる長骨が保存されていたものは男女あわせて94体である。また頭蓋骨および顔面の計測値の得られた成人は、吉胡貝塚の資料を除いて、男女あわせて32体しかなかった。

・各時期の推定身長

今回用いる計測値は、全て報告書に記載されていた計測値を使用し、ピアソン式によって算出した推定身長である。各時期の推定身長の男女の平均値を表1に示す。また、北部九州など他地域の平均身長と県内の平均身長を図2に示した。

このグラフから、江戸時代以降と弥生時代の成人女性の推定身長が全国の平均値よりもかなり高くなっていることがわかる。特に弥生時代のものは153cmと大きな値を示す。この時期の出土人骨には、朝日遺跡(1992)の方形周溝墓から出土した壮年女性が含まれている(池田 1993)。この人骨の推定身長が163cmと特に大きな値を示

すのであるが、この人骨を除いた平均値でも151cmとなり、やはり大きな値になってしまうのである。また古墳時代～中世の人骨では、男女ともその平均値は全国平均よりも低くなっているが、松崎遺跡出土の女性の身長が168.9cmと突出して高身長のものも含まれている。また朝日遺跡のように高身長を示す弥生人骨は、池田(1993)によれば大阪府や和歌山県でも出土していることから、愛知県付近の古人骨の一つの特徴であるかもしれない。

・頭蓋骨および顔面の形態

頭蓋骨および顔面の計測値を得られた資料は、身長を推定した資料よりも個体数は激減してしまう。縄文時代の資料では成人男性で4体、女性で6体。弥生時代では男性3体、女性5体である。比較的出土数が多く保存状態の良好なものが多かった円通寺遺跡(大府市)の資料においても、男性3体・女性6体でしかなかった。また、計測値も全てのものが得られているわけではなく、一部の計測値でしか比較検討ができないのである。

これまで、全国的に比較されてきた主な計測値は、頭蓋骨の最大長・最大幅・顔高・頬骨弓幅・眼窩幅・眼窩高などである。これらの数値から頭長幅示数や顔示数、眼窩示数を算出すると、長頭や短頭・低顔や中顔、高顔などの特徴が現れてくるのである。

県内の出土例を見てみると、いづれも女性であるが、本刈谷遺跡の縄文時代晩期の人骨は、身長が139cmで中頭・低顔となる。柳ヶ坪遺跡の弥生人骨では、147cmで長頭・高顔、法海寺の弥生人骨は147cmで短頭・中顔、朝日西遺跡の中世人骨では145.6cmの中頭・低顔、鳥

羽城跡の江戸時代人骨は145.3cmの短頭・高顔、円通寺遺跡の江戸時代末の人骨では150.1cmの中頭・低顔となる。168.9cmと突飛な高身長を示した松崎遺跡の女性人骨は、クリーニングの際に頭蓋骨が破損し計測値は得られていない。また朝日遺跡の方形周溝墓出土の163cmの人骨についても、頭蓋骨の保存が悪く計測値は得られていない。

現在弥生時代の人骨は、北部九州や山口県でみられる“渡来系”といわれる高身長・高顔のものと西北九州でみられる“在来系”といわれる低身長・低顔のものと2タイプが確認されている。しかし、これらのタイプと異なる特徴を持つ人骨(例えば低身で高顔)も出土しているため、弥生人の形質が変異に富んでいた可能性を指摘する(池田 1993) 声もある。

今後、この地域の保存状態の良好な人骨の大量出土をまって、この地域の形質の特徴を明らかにしてゆきたい。

主な参考文献

池田次郎(1993) 愛知県知多市法海寺遺跡出土の弥生時代人骨・法海寺遺跡II. 知多市教育委員会. 63-77.

(埋文セ 堀木真美子)

表1 他地域の平均身長

	成人男性 cm (体数)	成人女性 cm (体数)
愛知	160.2 16	147.3 16
縄文		
北部九州	159.2 8	150.5 7
関東	159.1 11	148.1 9
中・後・晩期	159.6 33	149.2 25
愛知	160.9 10	153.6 4
弥生		
北部九州・山口	162.2 129	151.3 87
北部九州	162.1 80	151.2 52
北西九州	158.8 16	147.9 8
大友	159.1 15	149.0 2
広田・鳥ノ峯	154.0 14	142.8 10
愛知(古墳～中世)	157.0 20	146.7 20
北九州・山口	162.8 40	150.2 15
南九州	158.3 7	146.8 2
古墳		
中国	159.1 14	148.7 8
近畿	160.8 17	150.2 4
中世		
関東・東北	162.8 28	149.7 9
吉母浜	158.3 18	146.5 22
材木座	159.1 10	146.9 3
愛知	156.4 2	150.1 6
江戸		
天福寺	160.8 24	146.5 20
深川	162.1 95	146.4 45

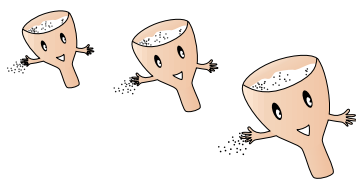
平成10年度埋蔵文化財展・講演会・講座の報告

埋蔵文化財展

8月1日(土)～8月16日(日)の期間、東海市立文化センターにおいて開催しました。

東海市内の遺跡・新出土品 '98・あゆち潟の原風景の3コーナーを設け、約550点の遺物を展示しました。

期間中、講演会および講座を含めた入場者数は1300名でした。



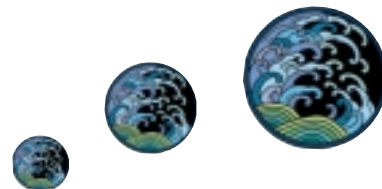
埋蔵文化財講演会

8月8日(土)、東海市立文化センターホールにて、第1部講演会・第2部パネルディスカッションの2部構成で開催されました。第1部は、日本福祉大学副学長福岡猛志氏を講師に迎え、「文献からみた尾張連のイメージ」と題した講演会。続いてVTR「あゆち潟の原風景」を上映。第2部では「あゆちの海と尾張連」と題したパネルディスカッションを開催。福岡氏をはじめ森勇一氏(県立明和高等学校)・木村有作氏(名古屋

屋市見晴台考古資料館)・立松彰(東海市教委)の4名をパネラーとして迎え、赤塚次郎(当センター主査)の司会によって、5～6世紀に活躍した尾張連をめぐり活発な討論を実施しました。

埋蔵文化財講座

8月1日(土)・15日(土)の2日間に、東海市の大木之本遺跡を含む展示された6遺跡について、発掘調査を担当した調査員が、遺構・遺物を中心に解説しました。



埋蔵文化財愛知 no.54

発行 平成10年9月30日

編集 財団法人 愛知県埋蔵文化財センター
〒498-0017

愛知県海部郡弥富町前ヶ須新田野方 802-24

TEL 0567-67-4161～4163 FAX 0567-67-3054

印刷 クイックス